

ICPE2024 参加報告

大学院理工学研究科博士前期課程 機械システム工学専攻 1年 林 千瑠



はじめまして。機械システム工学専攻、清水淳研究室に所属しております、林千瑠と申します。私は、放電堆積加工に関する研究を行っております。

放電堆積加工は、従来の放電加工と付加製造技術の課題を解決する新たな三次元創成技術です。このたび、東北大学青葉山キャンパスで開催された国際学会「ICPE2024」に参加し、研究成果を口頭発表してまいりました。初めての学会発表であり、さらに英語での発表であったため、非常に緊張しましたが、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。以下に、学会参加を通じて感じたことや学んだことを報告させていただきます。

今回参加したICPE2024は、精密工学会が主催する精密工学分野における最新の研究成果や技術開発が紹介されました。この学会は、世界中の研究者が集まる場であり、私にとって初めての国際学会参加となりました。

初日は、学会主催のテクニカルツアーに参加し、一ノ蔵酒造と松島を訪れました。ツアー前は発表への不安から気持ちが乗りませんでしたが、酒造での日本酒の飲み比べや、松島の遊覧船体験を通じて、リラックスして楽しむことができました。ツアーのガイドはすべて英語であったため、英語のリスニング練習にもなりました。昼食で

は、仙台名物の牛タンとカキフライが入ったお弁当を堪能し、初日から地元の魅力を感じることができました。



図1 当選時の写真

夜には、ウェルカムレセプションが開催され、ホテル会場に参加者が集まりました。主催者による鏡開きでパーティーが始まり、学会が始まった実感が湧きました。会場内には、日本文化を体験できるブースが設けられており、私は万華鏡作りに参加しました。また、焼き立ての牛タンや握りたてのお寿司など、豪華な食事がビュッフェ形式で提供され、発表のことを忘れて楽しむことができました。さらに、一ノ蔵の日本酒の利き酒イベントが行われ、全問正解ではありませんでした。

が、当選し景品を頂きました（図1）。

2日目は、他の

参加者の発表を聴講しました。最新の研究動向や技術開発について学ぶことができ、発表レベルの



図2 発表会場

高さに圧倒されると共に、自身の発表への不安を強く感じました。しかし、他分野の研究に触れることで、新たな知見を得ることができました。

3日目は、自身の研究発表を行いました。(図2) 発表自体は、これまでの準備を活かし、無事に終わることができました。しかし、質疑応答では英語のコミュニケーションに苦戦し、質問が聞き取れない、または回答をうまく伝えられない場面がありました。この経験から、英語での質疑応答に対する準備の重要性を痛感しました。また、今後のアドバイスとして、発表前に司会者に挨拶をして、サポートを依頼しておくことが有効であると感じました。

夜にはバンケットが開催され、コース形式で和・洋・中の料理が提供されました。ステージでは三味線の演奏やスズメ踊りのパフォーマンスが行われ、参加者全員で楽しむことができました。

(図3) また、ランダム抽選で景品が当たる企画があり、そこでも私は当選し、風呂敷を頂きました。

今回の学会参加を通じて、多くの景品だけでなく、多くの学びと貴重な経験を得ることができ



図3 スズメ踊りのパフォーマンス

ました。他参加者の発表からは、専門分野の最新トレンドを理解し、自身の研究への新たな視点を得ることができました。また、自身の発表を通じて、国際的な場で研究を発表することの意義を改めて実感し、研究への熱意がさらに高まりました。一方で、英語での質疑応答に苦戦したことが今後の課題として残りましたが、この経験は今後の研究活動において大きな励みになると確信しています。最後に、このような貴重な機会を提供してくださった担当教員および多賀工業会の皆様に心より感謝申し上げます。